

研究課題名抗血小板薬内服継続下での腹部大動脈瘤ステントグラフト内挿術の安全性の検討に関する情報公開

1. 研究の対象

2011年4月1日～2016年9月31日に当院でステントグラフト内挿術を受けられた方

2. 研究目的・方法

【目的】

血栓とは血管の中の血液がつくる血の塊のことです。これが心臓の冠動脈にできると心筋梗塞、脳にできると脳梗塞、肺の動脈にできると肺血栓塞栓症を引き起こします。この血栓を予防する効果的な方法に抗凝固療法があります。抗凝固療法では血液をサラサラにする薬である『抗凝固薬』や『抗血小板薬』を使い、血栓を予防します。

抗凝固療法を中止すると、血栓症の発症のリスクがあります。従来、外科手術の前には、大量出血などのリスクをより重く考えて、抗凝固薬や抗血栓薬は中止されてきました。しかし、抗凝固薬や抗血栓薬を継続しながら手術を行った場合の安全性の報告も増えていきます。そのため、出血のリスクの低い手術については抗血小板薬を続けたままで行われる機会が増加しています。また、最近では、腹部大動脈瘤の治療法として、出血量の少ないステントグラフト内挿術が普及しています。この手術では、他の類似した術式での安全性から当院では抗血小板薬を継続したまま、この術式を行なっています。しかし、この術式は比較的新しいため、安全性の情報がまだ少なく、手術後の出血および血栓症について評価を行います。

【方法】

抗血小板薬服用している群と服用していない群の2群に分けて、手術時間、出血量、輸血量など出血に関するパラメータを比較検討します。また、イベントの発生と、定期服用している抗凝固薬・抗血小板薬などについて統計解析を行います。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：病歴、薬歴、術式、性別、年齢、身長・体重などの身体情報、手術時間、出血量、輸血量、採血結果、術後イベント等

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

しかしながら解析終了後または学会・論文での発表後には、データを削除できないことがあります。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

住所 466-8560 名古屋市昭和区鶴舞町 65

電話：052-741-2111

担当者の所属・氏名：名古屋大学医学部附属病院薬剤部 今尾瑞季

研究責任者：

名古屋大学医学部附属病院薬剤部 山田清文